

令和 4 年 度 自 己 評 価 表（最終評価）

鳥取県立青谷高等学校

長期目標 (学校ビジョン)	人づくり ～ふるさとキャリア教育 生涯学び続けるために～ 自分らしさに誇りを持ち、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成	今年度の 重点目標	1 知を磨く	○学ぶ喜びを実感し、知的感受性を高め、生涯にわたって学び続ける力をつける。 ○より高い目標に挑戦し、あきらめずに探究し、新たな価値を創造する力をつける。 ○確かな学力・充実した進路学習により、進路実現100%を目指す。
			2 徳を高める	○持続可能な社会の実現や地域貢献活動に協働して取り組み、郷土愛や社会の一員としての自覚を深める。 ○多様な立場や考え方を理解すると同時に、自分の意見を的確に伝え、互いの尊厳のもと、よりよい人間関係を築く。
			3 健康を育む well-being	○健康に対する正しい知識を持ち、健康を管理する力をつける。 ○自己理解を深め、自分の良さや可能性、使命を自覚し、主体的に行動する力をつける。 ○生徒会活動の学校自治や文化部・運動部の活性化をすすめ、青高を広く理解いただき、皆から愛され必要とされる存在を目指す。
			4 業務改善の推進	○時間外業務時間縮減を推進する。 ○学校行事等を見直し精選する。

評価基準 A：十分達成（95%） B：概ね達成（75%程度） C：変化の兆し（60%程度） D：まだ不十分（40%程度） E：目標・方策の見直し（30%以下）

年 度 当 初			評 価 結 果 （ 3 ） 月																																																																	
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策																																																													
1 知を磨く	○学ぶ喜びの実感 ○知的感受性の高揚 ○学び続ける力の育成	○ICT等を活用した授業により、学習意欲が向上したと思う生徒は約76%。 （R1:78.9%→R2:97.0%→R3:76.4%） ○ICT等を活用した教員は100%。 ○教科指導におけるICT活用は、「とっとりICT活用ハンドブック」記載のほぼレベル2。 ○県内の大学や短大の教員による授業を実施している。 ○校内GIGA研修を毎月の定例職員会議後に実施している。	○ICT活用などにより、主体的に学習に取り組んでいる生徒が80%以上。 【指標①】 ○「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の授業を生かして進路選択に繋がっている。	○ICT活用の推進。 ○校内GIGA研修の継続。 ○地元企業と連携したプログラミング教育。 ○青谷学Ⅰ及び青谷学Ⅱの充実。 ○多様な科目の充実。 ○的確な観点別評価の実施。	○ICT活用などにより、主体的に学習に取り組んでいると肯定的回答をした生徒は55.4%。 ○教員は授業でICT等を活用しており、「とっとりICT活用ハンドブック」記載のレベル2にほぼ達している。 ○1月末現在のiPad使用回数は2523回（昨年同期1827回）と頻繁に活用。また、Chromebookの活用も定着しており、学習活動や調査、連絡に活用されている。 ○ジャパンナレッジSchoolを活用している。 ○毎月の定例職員会後に校内GIGA研修を実施した。 ○地元企業から外部講師を招聘し、1年次情報Ⅰにおいてプログラミング教育を実施した（7月～10月）。 ○観点別評価初年度につき、評価の在り方について検討や試行錯誤を繰り返した結果、共通理解が進み、的確な観点別評価が行われている。 ○「らっこたん」の活用により、生徒のタイピングが向上している。	B	○校内GIGA研修を継続し、教職員のスキルを高める。 ○引き続き、教育向けオンラインツールの「らっこたん」を活用し、生徒のタイピングや表現力を向上させる。																																																													
	○より高い目標への挑戦 ○あきらめず探究する力の育成 ○新たな価値を創造する力の育成	○授業開始前に準備をして意欲的に取り組んでいると肯定的に思う生徒は約96%。 （R1:87.5%→R2:94.2%→R3:96.1%） ○授業規律は概ねよいが、授業に対する意欲が不足している生徒がいる。 ○英語検定等を積極的に受検している生徒もいるが、R3より1年次生全員が漢字検定を受検している。 ○R4より各年次において実力診断テストを導入することにした。	○授業に意欲的に取り組んでいる生徒が95%以上。【指標②】 ○複数の各種検定を受検したり外部のコンクール等で発表したりしている。 ○各年次とも補習や個別指導を複数名が受講している。 ○進路実現に向け、目標に即した系列を選択している。	○年次、進路及び授業担当者との密な連携。 ○各種検定や各種コンクール等へ積極的参加及び挑戦。 ○青谷学Ⅱの充実。 ○添削等の個別指導の充実。 ○的確な系列・科目選択指導。	○学校評価アンケートで、授業に意欲的に取り組んでいると肯定的回答をした生徒は約92.9%。 ○全国高校生歴史フォーラム、高野山競書大会、放哉を書く全国公募展、日本海新聞児童生徒新聞感想文コンクール、とっとりごみゼロポスターコンクール、県高校ワープロ新人競技大会、中学生高校生ポップコンテスト、鳥居龍蔵記念歴史文化フォーラム等で優秀賞などを受賞した。 ○全商ビジネス計算実務検定試験において、履修者14名全員が1級に合格した。 ○全年次で平日及び夏季補習を実施。また、個別指導が充実し、学校推薦型選抜や総合型選抜等、年次を超えて指導することができた。 ○少人数授業や、TTや特別支援教育支援員の支援等により、学ぶ意欲が高まった生徒がいる。 ○昨年度までの「課題探究」を「青谷学Ⅱ」に名称変更し、青谷学Ⅰとの系統性を明確化することができた。また、評価指標も作成し、発展性をもたせることができた。		B	○引き続き、関係者で密な連携をとる。 ○補習の主管を進路部とし、運用方法等については年次で計画していく。																																																												
	○確かな学力の育成 ○充実した進路学習 ○進路実現100%	○授業で基礎的・基本的な学力が身につけていると思う生徒は約31%。 （R1:20.4%→R2:24.6%→R3:30.6%） ○1月基礎力診断テストのDゾーンの生徒の割合は各教科とも減少傾向。Bゾーン以上の生徒の割合は次のとおり。 <table><tr><td></td><td>国語</td><td>数学</td><td>英語</td><td>3科</td></tr><tr><td>1年次</td><td>30.2%</td><td>15.1%</td><td>13.2%</td><td>15.1%</td></tr><tr><td>2年次</td><td>33.3%</td><td>16.7%</td><td>3.7%</td><td>11.1%</td></tr></table> ○授業の予習や復習をしていると肯定的に思う生徒は約60%。 （R1:34.3%→R2:43.7%→R3:60.0%） ○講演会等が進路選択や生き方に役立っていると思う生徒は約94%。 （R1:80.9%→R2:82.6%→R3:94.4%） ○定期考査中の自宅学習時間調査では好結果だが、日頃の自宅学習習慣が定着している生徒は少ない。 ○様々な進路情報に疎く、消極的な進路選択となっている生徒がいる。		国語	数学			英語	3科	1年次	30.2%	15.1%	13.2%	15.1%	2年次	33.3%	16.7%	3.7%	11.1%	○授業で基礎的・基本的な学力が身につけていると思う生徒が40%以上。 【指標③】 ○1月基礎力診断テストで各教科のDゾーンの生徒の割合が年度当初より10%減少。【指標④】 ○1月基礎力診断テストの各教科のBゾーン以上の生徒の割合が17%以上。 【指標⑤】 ○予習・授業・復習のサイクルができている生徒が65%以上。【指標⑥】 ○進路学習が充実している（講演会等は進路や生き方を考えるのに役立っている）と思う生徒が90%以上。【指標⑦】 ○地元企業のインターンシップや学校のオープンキャンパスに参加している。 ○様々な進路情報をもとに、視野を広げて積極的な進路決定になっている。	○学び直しの充実（基礎学力の定着指導）。 ○自宅学習の定着指導。 ○定期的な自宅学習時間調査。 ○進路講演会、レディネステスト活用、面接等の充実。 ○的確な進路情報の提供。	○学校評価アンケートで ・授業で基礎的・基本的な学力が身につけていると回答をした生徒は36.5%。 ・1月基礎力診断テストにおけるDゾーンの4月からの増減、Bゾーン以上の状況は次のとおり。 <table><tr><td></td><td></td><td>国語</td><td>数学</td><td>英語</td></tr><tr><td>Dゾーン</td><td>1年次</td><td>4.7% 減</td><td>38.6% 減</td><td>21.1% 減</td></tr><tr><td></td><td>2年次</td><td>9.0% 減</td><td>8.9% 増</td><td>16.1% 減</td></tr><tr><td>Bゾーン</td><td>1年次</td><td>32.8%</td><td>21.8%</td><td>7.5%</td></tr><tr><td></td><td>2年次</td><td>19.6%</td><td>13.7%</td><td>8.0%</td></tr></table> ・授業の予習や復習をしていると肯定的回答をした生徒は57.7%。 ・講演会等が進路選択や生き方に役立っていると思う生徒は93.6%。 ○インターンシップやオープンキャンパスへの参加により、自分の適性を知り、自分に合った進路を考え始めた生徒がいる。 ○今年度から考査前及び考査中の自宅学習時間調査を実施。学習時間は増加している。（単位：分） <table><tr><td></td><td>1中前</td><td>1中</td><td>1末前</td><td>1末</td><td>2末前</td><td>2末</td></tr><tr><td>R4</td><td>82.6</td><td>114.4</td><td>107.6</td><td>131.3</td><td>95.1</td><td>133.4</td></tr><tr><td>R3</td><td>—</td><td>111.1</td><td>—</td><td>125.6</td><td>—</td><td>134.0</td></tr></table> ○「卒業生に聞く」講演会講師は、生徒の年齢にも近く生の声でもあり有意義である。 ○3年次レディネステスト後にCAによる説明会を実施し、生徒は自己理解に繋がっている。			国語	数学	英語	Dゾーン	1年次	4.7% 減	38.6% 減	21.1% 減		2年次	9.0% 減	8.9% 増	16.1% 減	Bゾーン	1年次	32.8%	21.8%	7.5%		2年次	19.6%	13.7%	8.0%		1中前	1中	1末前	1末	2末前	2末	R4	82.6	114.4	107.6	131.3	95.1	133.4	R3	—	111.1	—	125.6	—	134.0
	国語	数学	英語	3科																																																																
1年次	30.2%	15.1%	13.2%	15.1%																																																																
2年次	33.3%	16.7%	3.7%	11.1%																																																																
		国語	数学	英語																																																																
Dゾーン	1年次	4.7% 減	38.6% 減	21.1% 減																																																																
	2年次	9.0% 減	8.9% 増	16.1% 減																																																																
Bゾーン	1年次	32.8%	21.8%	7.5%																																																																
	2年次	19.6%	13.7%	8.0%																																																																
	1中前	1中	1末前	1末	2末前	2末																																																														
R4	82.6	114.4	107.6	131.3	95.1	133.4																																																														
R3	—	111.1	—	125.6	—	134.0																																																														

令和 4 年 度 自 己 評 価 表（最終評価）

鳥取県立青谷高等学校

長期目標 (学校ビジョン)	人づくり ～ふるさとキャリア教育 生涯学び続けるために～ 自分らしさに誇りを持ち、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成	今年度の 重点目標	1 知を磨く	○学ぶ喜びを実感し、知的感受性を高め、生涯にわたって学び続ける力をつける。 ○より高い目標に挑戦し、あきらめずに探究し、新たな価値を創造する力をつける。 ○確かな学力・充実した進路学習により、進路実現100%を目指す。
			2 徳を高める	○持続可能な社会の実現や地域貢献活動に協働して取り組み、郷土愛や社会の一員としての自覚を深める。 ○多様な立場や考え方を理解すると同時に、自分の意見を的確に伝え、互いの尊厳のもと、よりよい人間関係を築く。
			3 健康を育む well-being	○健康に対する正しい知識を持ち、健康を管理する力をつける。 ○自己理解を深め、自分の良さや可能性、使命を自覚し、主体的に行動する力をつける。 ○生徒会活動の学校自治や文化部・運動部の活性化をすすめ、青高を広く理解いただき、皆から愛され必要とされる存在を目指す。
			4 業務改善の推進	○時間外業務時間縮減を推進する。 ○学校行事等を見直し精選する。

評価基準 A：十分達成（95%） B：概ね達成（75%程度） C：変化の兆し（60%程度） D：まだ不十分（40%程度） E：目標・方策の見直し（30%以下）																											
年 度 当 初					評 価 結 果 （ 3 ） 月																						
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策																				
2 徳を高める	○持続可能な社会の実現や地域貢献活動に協働 ○郷土愛の育成 ○社会の一員としての自覚	○地域の活動等に参加していると肯定的に思う生徒は約49%。 (R1:38.4%→R2:40.4%→R3:48.9%) ○制服の着こなしができていると思う生徒は約66%。 (R1:65.7%→R2:77.0%→R3:65.6%) ○丁寧な言葉遣いができていると肯定的に思う生徒は約94%。 (R1:87.8%→R2:90.1%→R3:94.4%)	○生徒の50%以上が地域活動・ボランティアに参加している。【指標⑧】 ○制服をきちんと着ている生徒が70%以上。【指標⑨】 ○T P O に応じた言葉づかみができている生徒が95%以上。【指標⑩】 ○生徒の地域に関する興味関心が高まっている。	○青谷学Ⅰ及び青谷学Ⅱの充実。 ○外部人材の活用。 ○ボランティア活動の推進。 ○地域の保育園・小学校・中学校・T C D 等との連携。 ○ゴミの分別及び削減の推進。	○学校評価アンケートで ・地域や学校外でのボランティア活動に参加していると肯定的回答をした生徒は54.5%。 ・制服の着こなしができていると回答をした63.5%。 ・丁寧な言葉遣いができていると肯定的回答をした生徒は95.5%。 ○外部講師の活用や現地学習による地域学習が計画的に行われている。 ○すすく保育園、あおや鳴り砂ビーチフェスタ、あおいち等のボランティアに参加し、充実感を得ている生徒がいる。 ○県漁協等と連携してムラサキウニの磯焼け問題に新たにに取り組んでいる。	B	○粘り強い声かけを継続する。 ○ボランティアの窓口の一本化を検討する。																				
	○多様な立場や考え方の理解 ○自分の意見を的確に伝達 ○互いの尊厳のもと、よりよい人間関係の構築	○毎日の挨拶がきちんとできていると肯定的に思う生徒が約88%。 (R1:78.2%→R2:83.7%→R3:88.3%) ○学校生活で周囲の人たちとの人間関係は良好と思う生徒は約55%。 (R1:34.5%→R2:51.3%→R3:55.0%) ○人権教育LHR等において、意見発表や意見交換ができています。 ○SNS等でのトラブルがある。	○毎日の挨拶ができていると思う生徒が90%以上。【指標⑪】 ○人間関係は良好と思う生徒が60%以上。【指標⑫】 ○人権教育LHR等を通じて他者を思いやり、認める姿勢を深めている。 ○青谷学Ⅰや青谷学Ⅱを通してプレゼンテーション能力が向上している。	○生徒会執行部による定期的な挨拶運動。 ○人権教育LHRの事前事後指導の充実。 ○各種講演会の充実。 ○地域の保育園・小学校・中学校・T C D 等との連携。	○学校評価アンケートで ・毎日の挨拶をきちんとしていると肯定的回答をした生徒は90.4%。 ・学校生活で周囲の人たちとの人間関係は良好と回答をした生徒は44.9%。 ○生徒会執行部による挨拶運動や、教職員自らによる元気ある挨拶ができた。 ○人権教育LHR等で発表したり、意見交換したりしているが、他者に対する気遣いなどに十分つながっていない。 ○弥生文化探究やスポーツⅣ、スポーツⅤ、子ども文化において、青谷小学校、青谷中学校、鳥取南中学校、すすく保育園と連携した。		C	○粘り強い声かけを継続する。 ○探究活動の中で、積極的な意見交換をサポートするとともに、よりよい人間関係の構築もサポートし続ける。																			
3 健康を育む Well-being	○健康に対する正しい知識の習得 ○健康を管理する力の育成	○R 4 年 1 月 末 現 在 に お い て 欠 席 率 2.46%、遅刻率1.00%である。 欠席 (R1:2.76%→R2:1.51%→R3:2.71%) 遅刻 (R1:1.69%→R2:0.88%→R3:1.02%) ○虫歯の治療率が低い。 (R1:22.3%→R2:21.1%→R3:22.1%)	○欠席率・遅刻率がともに2%未満である。【指標⑬】 ○様々な検診をとおして治療率が向上している。	○保護者との密な連携。 ○各種講演会の実施。	○1月末欠席率3.03%、遅刻率1.60%。 ○保護者への連絡は密に行っており、必要に応じて迅速に家庭訪問も行っている。 ○1月末における歯科治療は29.2%に留まっている。 ○教職員一丸となって健康観察入力の習慣化指導を徹底している。 ○昼食時に、保健委員による黙食の啓発放送や音楽を流して感染拡大防止に努めており、その趣旨を理解して黙食する生徒も多い。	C	○生徒・保護者に粘り強く呼びかけ続ける。 ○迅速な保護者連絡を継続する。 ○引き続き、ほけんだより等による啓発活動や、P T A懇談等を活用した個別指導を行う。																				
	○自己理解 ○自分の良さ・可能性・使命の自覚 ○主体的に行動する力の育成	○クラスや部活動、仲の良いグループ内で自身の存在を認められていると感じている一方、クラスの中で孤立感を覚えたり、周囲の目が気になり不安や緊張を覚えたりする生徒がいる。 (R1:39人→R2:31人→R3:20人)	○種々の授業・行事・ボランティア参加を通じて、参加した生徒の80%以上が自己有用感・自己肯定感を高めている。【指標⑭】	○肯定的な声かけ指導の実践。 ○だっぴ等の充実。 ○定期的な「自己肯定感に関するアンケート」の実施。 ○hyper-Q検査の実施（1・2年次とも2回）と教職員研修。	○自己肯定感に関するアンケートを年3回実施し、「自分のことを大切にしようと思う」に肯定的回答をした生徒は次のとおり。 <table><tr><th></th><th>1年次</th><th>2年次</th><th>3年次</th><th>全 体</th></tr><tr><td>7月</td><td>82.7%</td><td>79.2%</td><td>82.6%</td><td>81.4%</td></tr><tr><td>10月</td><td>90.9%</td><td>89.4%</td><td>86.8%</td><td>88.9%</td></tr><tr><td>1月</td><td>76.0%</td><td>84.8%</td><td>94.1%</td><td>85.3%</td></tr></table> ○3年次では、就職試験前の黙食が特に徹底でき、他者への配慮が見受けられた。 ○hyper-Qの教職員研修を8月と1月に実施し、生徒指導に活かすことができている。			1年次	2年次	3年次	全 体	7月	82.7%	79.2%	82.6%	81.4%	10月	90.9%	89.4%	86.8%	88.9%	1月	76.0%	84.8%	94.1%	85.3%	B
		1年次	2年次	3年次	全 体																						
7月	82.7%	79.2%	82.6%	81.4%																							
10月	90.9%	89.4%	86.8%	88.9%																							
1月	76.0%	84.8%	94.1%	85.3%																							
○生徒会活動の学校自治や部活動の活性化 ○愛され必要とされる存在へ	○部活動は充実していると思う生徒は約85%。 (R1:86.4%→R2:79.4%→R3:84.9%) ○生徒会執行部に積極的に加入している。 ○部活動加入率が低く、部員数不足の部がある。 ○公式Instagramを開設した。	○部活動は充実していると思う生徒が90%以上。【指標⑮】 ○公式Instagram、ホームページを頻繁に更新している。 ○中学生体験入学の参加者の75%が本校への入学を希望する。	○部活動の充実。 ○公式Instagram、ホームページの活用。 ○ポスター、学校案内の工夫。	○学校評価アンケートで、部活動は充実しているという肯定的回答をした生徒は93.7%。 ○学校祭や修学旅行等において、主体的に計画を立てたり実行したりする生徒が見受けられた。 ○魅力化推進担当のリーダーシップにより、広報活動が活性化しており、魅力化推進活動等資料を作成し、関係機関等へ配布した。 ○ブラジル訪日団の本校訪問にあたり、生徒会が主体的に交流会を企画し、交流を深めることができた。	B	○効果的な情報発信を引き続き探究する。																					
4 業務改善の推進	○時間外業務時間縮減	○時間外業務時間の全体平均は少なく、月45時間以上の延べ人数は0人である。 (R1:延べ21人→R2:1人→R3:0人) ○R 3 年 休 取 得 は 平 均 年 13.56日。 (R1:13.58日→R2:12.66日→R3:13.56日) ○部活動は、週一日の休養日を設けて活動している。	○全教職員が、時間外業務時間は月45時間以内、年360時間以内。【指標⑯】 ○教職員の年休取得が平均年15日。【指標⑰】 ○教職員が健康で教育活動が充実。	○管理職による声かけ。 ○毎月の部活動計画及び部活動実施報告。	○時間外業務時間が平均月45時間を超える教職員はいない。 ○R 4 年 休 取 得 は、平均14.48日であった。	B	○管理職は、引き続き声かけをしていく。																				
	○学校行事等の見直し・精選	○行事や講演会等が多く行われ、生徒・教職員に負担感がある。	○行事の精選が行われ、生徒・教職員の負担感が軽減。	○優先順位づけ。 ○重複する内容の行事等の見直し。	○本校独自の文書共有DBをnotesに開設し、紙媒体による閲覧や稟議を削減している。		C	○「産業社会と人間」と「総合的な探究の時間」の内容を整理する。 ○業務日誌等のデジタル化を進める。																			